

「環境共生都市『ながの』の実現」を目指して!

「SDGs未来都市ながのReport」では、環境共生都市「ながの」の実現に向かって共に活動を展開する企業や団体にスポットを当て、各主体の様々な取り組みについて、市民の皆様を紹介し、パートナーシップによるまちづくりを推進していきます。

※「SDGs未来都市」とはSDGsの達成に向けた優れた取組を提案する都市として国(内閣府)が選定するもの。

小布施町 SDGsの取り組み

小布施町環境グランドデザイン

【目指す将来像】

オール小布施で目指す環境防災先進都市

小布施町では、令和4年2月、本町での生活とその将来を守るため、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボン宣言」を長野地域連携中枢都市圏の9市町村の共同で発出し、その目標設定と基本的な取組事項をまとめた「小布施町環境グランドデザイン」を同年5年に策定しました。本グランドデザインは、この「ゼロ・カーボン」に「ゼロ・ウェイスト」、「防災・レジリエンス」、「サステナブルな観光」を加えた4つの施策を推進するもので、本町が「環境防災先進都市」を目指すことを定めています。



基本方針	基本姿勢	基本施策
ゼロ・カーボン 温室効果ガスを出さない町	ゼロ・カーボンでスマートな移動ができる町(移動の排出削減)	●そもそも自家用車での移動に頼らずに済むまちづくり ●電気自動車などCO2を出さない車(ZEV)の普及
	地域の資源で温まる町(地域資源の熱エネルギーへの転換)	●未利用の熱エネルギーポテンシャルの有効活用 ●都市ガスの有効活用による排出量の削減
	ゼロ・カーボンで電気を創れる・使える町(電力の排出削減)	●太陽光発電など地域のための再生エネルギーの利活用 ●再生エネルギーを活用した電力契約への切替え促進
	エネルギーをなるべく使わずに済む町(省エネルギー)	●高断熱・高气密の快適な建物の普及 ●エネルギー効率の高い家電や設備への買替 ●家庭や事業所での省エネ行動の実践
ゼロ・ウェイスト ごみを出さない町	こみになるものを使わない町(発生抑制と素材転換)	●ごみを出さない買い方・売り方の普及 ●包装材の削減、代替素材等の検討
	地域内でこみを有効利用する町(地域内資源循環と再使用促進)	●地域内リユースやアップサイクル推進 ●有機系廃棄物の地域内有効利用
	どうしても出るごみは最大限資源化する町(再生利用促進と適正処理)	●資源化を促す資源回収の仕組みづくり ●事業系廃棄物の資源化推進の制度設計
防災・レジリエンス 災害に備える町	流域治水と産業転換で、災害が発生しづらい町	●流域治水や堤防強化等の推進による水害の未然防止 ●気候変動に強い農業生産技術や品種の研究強化と導入促進
	災害が起きて「逃げ遅れゼロ」の町	●災害時の避難行動に対する住民意識の啓発 ●災害時要支援者の避難支援の仕組みづくり
	発災時にも最低限のインフラが機能する町	●災害時の電力供給の確保 ●空調設備の多重性の確保
サステナブルな観光 訪れる人もサステナビリティを感じられる町	心地よい移動・町巡り体験ができる町	●専門機関との連携強化 ●小布施ファンとのネットワーク強化 ●ボランティアセンターの運営機能強化
	本物の食、本来の食が体験できる町	●電気自動車社会を見据えたインフラ整備 ●環境に優しく町巡りに適した二次交通の充実
	豊かな暮らしに調和する潜在力ができる町	●食文化・技術を活かしたサステナブルな食コンテンツ開発 ●自然・農業を活かしたサステナブルな食コンテンツ開発
		●滞在型体験コンテンツの開発 ●ZC/ZW施策の観光分野への拡張

環境政策において意識したい観点

みんなて取り組む町

景観を大事にする町

データで可視化する町

財政的に健全な町

お問い合わせ

長野地域連携中枢都市圏 事務局(長野市企画政策部 企画課)
〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613番地
Tel:026-224-5010 Fax:026-224-5103

長野圏域SDGsポータルサイト
「Nagano Region SDGs ACTION」の
お問い合わせフォームからもお問い合わせいただけます



株式会社 中沢塗装

設立 1973年2月
代表者 代表取締役 中沢英俊
住所 〒381-0204
上高井郡小布施町飯田640
TEL 026-247-5533
FAX 026-247-5177
HP <http://nakazawatosou.com/>

塗装を専門とする中沢塗装は、工場施設の防カビ塗装や遮熱・断熱塗装、プラントや橋梁の塗装、住宅の屋根や外壁の塗り替え工事など、個人、企業を問わず、幅広い案件を手掛けています。

企業理念に「付加価値のある商品をお客様に提供し、お客様、社員双方が笑顔になれる仕事をする」を掲げ、安心、安全で環境にも優しい材料を提供し、発生する廃棄物等の量を減らすなど、お客様、社員、すべての人が笑顔で住み続けられるまちづくり、環境づくりを目指しています。



塗装会社が環境のためにできること

当社が環境問題について考えるようになったのは約20年ほど前になります。日本国内のVOC(※)総排出量の約40%が塗料から発生し、VOCに含まれるさまざまな物質が、大気汚染やオゾン層の破壊に繋がっていることを重く受け止め、塗料を扱う会社として環境のために何ができるかを模索していました。また令和元年10月に発生した令和元年東日本台風(台風第19号)で、自社の別部門の建屋が被害を受けたことも、その思いを一層強くしました。以来、環境負荷を低く抑えるために、環境に配慮した製品を業界に先駆けて採用し、お客さまにも選択肢の一つとしてご提案するなど、SDGsに繋がる活動に取り組んでいます。

※VOC/揮発性有機化合物(Volatile Organic Compound)の略称。

重点的な取り組み

塗料の変更 溶剤型から 水性へ

環境負荷低減のために、溶剤型塗料を水性塗料に変更。水性塗料は、溶剤型塗料より高額で耐久性が低下する場合がありますが、環境改善に繋がるという意図を説明し、発注者のご理解をいただけるよう努力を続けています。

水性塗料の 使用割合

2021年	2022年
24%	28%

プラス
4%
達成

廃溶剤 再生装置の 導入

廃溶剤再生装置を積極的に導入し、廃シンナーなどを洗浄用シンナーに再生。何度か再生利用したのち、廃塗料専門許認可工場で固化し、セメントの製造工程で燃料・原料として利用しているため、廃棄処分がなくなりました。

廃塗料、廃シンナーの 再資源化の割合

2021年	2022年
0%	80%

80%
再資源化
達成

廃棄塗料の量

2021/3/1~2022/5/31	2022/6/1~2023/2/28
3960ℓ	0ℓ

3780ℓ
すべて
再利用

洗浄用ラッカー シンナーの購入量

2021/3/1~2022/2/28	2022/3/1~2023/2/28
496ℓ	288ℓ

年間
208ℓ
購入減

その他の取り組み

エコ断熱塗装システム

屋根・壁・天井・ガラスに塗るだけで省エネと節電を実現する塗料をご提案しています。

機能性塗料

低臭気ですべて低汚染な塗料や水性で非危険物な塗料を積極的に採用しています。

社内勉強会

環境負荷の少ない塗料について、社員の理解と知識を深めるために勉強会を開いています。

太陽光発電システムの設置

工事部・倉庫の屋根に太陽光発電のパネル230枚を設置。環境負荷を減らし、災害にも備えています。